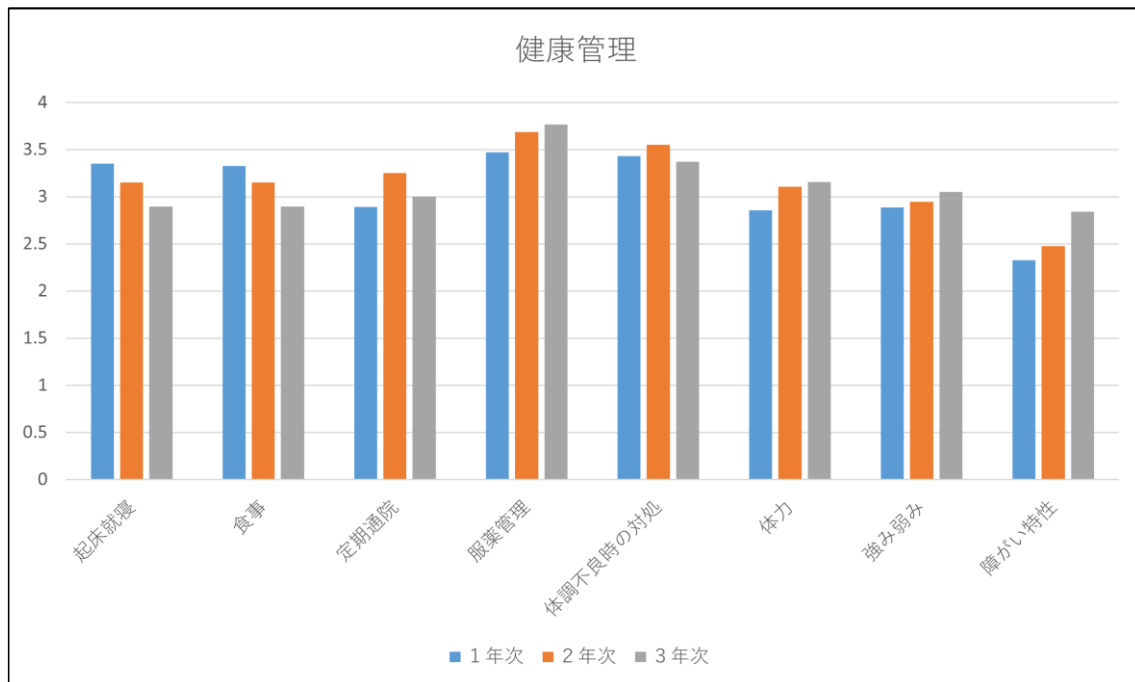


(2) 令和4年度入学生の3年間の得点の推移の比較

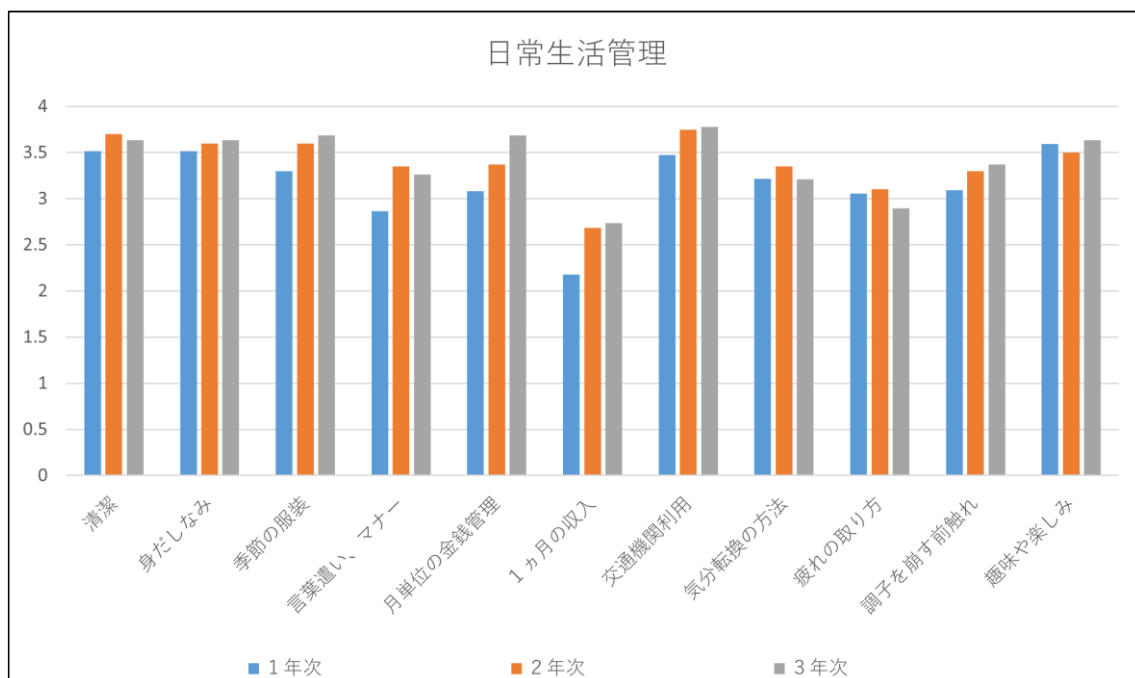
【健康管理】



3年間通じての平均点が3点以上の項目：「服薬管理」、「体調不良の対処」

3年間通じての平均点が1～2点台の項目：「障がい特性」

【日常生活管理】

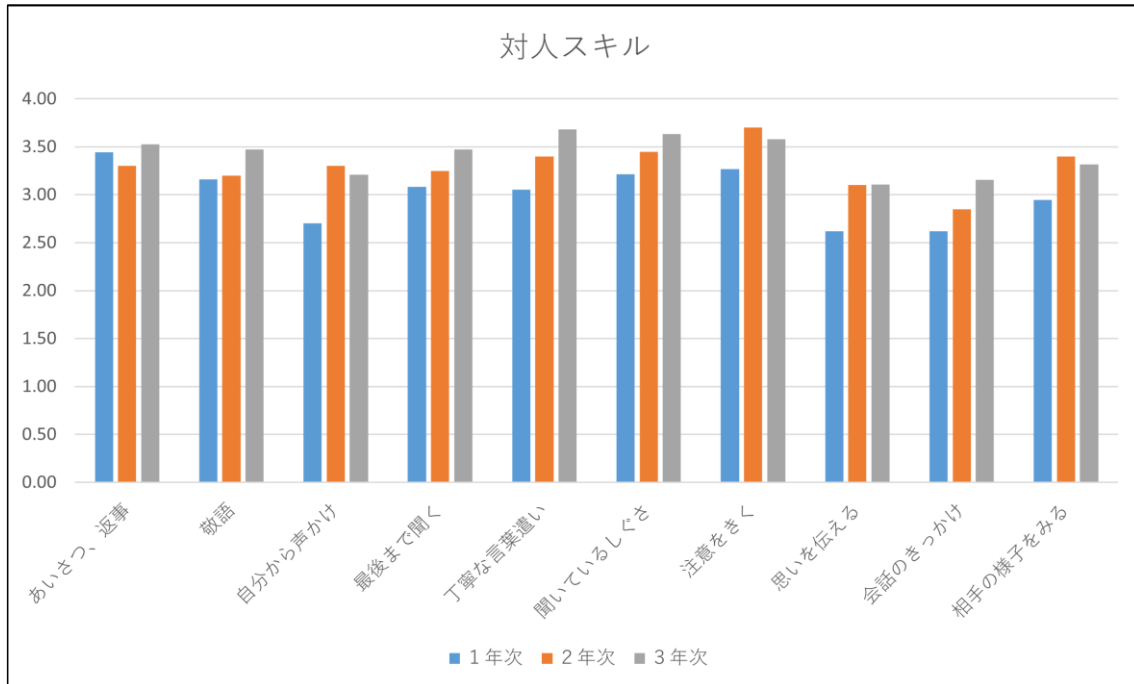


3年間通じての平均点が3点以上の項目

「清潔」「身だしなみ」「季節の服装」「月単位の金銭管理」「気分転換の方法」「交通機関利用」「調子を崩す前触れ」「趣味や楽しみ」

3年間通じての平均点が1～2点台の項目：「1か月の収入」

【対人スキル】

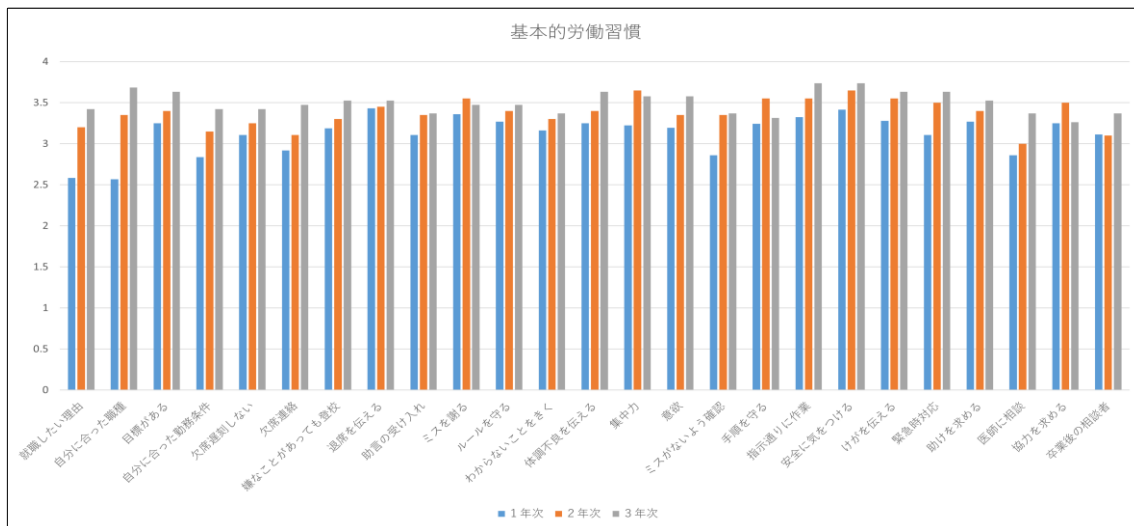


3年間通じての平均点が3点以上の項目

「あいさつ、返事」、「敬語」、「最後まで聞く」、「丁寧な言葉遣い」、「聞いているしぐさ」、「注意をきく」、「相手の様子を見る」

3年間通じての平均点が1～2点台の項目：なし

【基本的労働習慣】

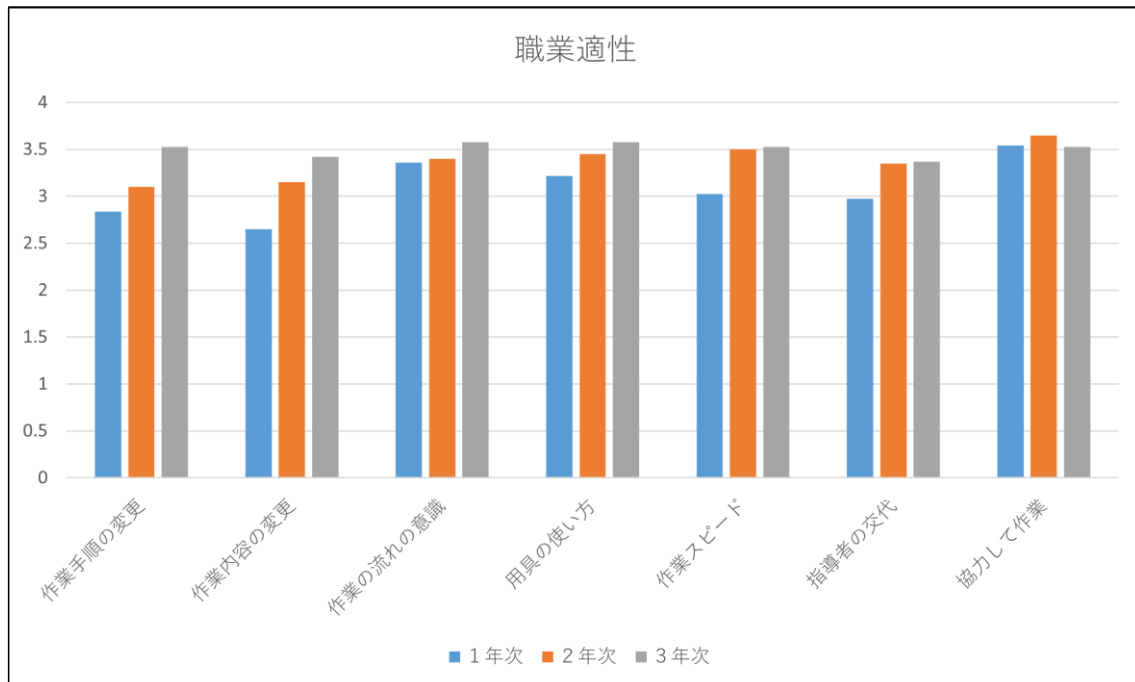


3年間通じての平均点が3点以上の項目

「欠席遅刻しない」、「嫌なことがあっても登校」、「退席を伝える」、「助言の受け入れ」、「ミスを謝る」、「ルールを守る」、「わからないことをきく」、「体調不良を伝える」、「集中力」、「意欲」、「手順を守る」、「指示通りに作業」、「安全に気をつける」、「けがを伝える」、「緊急時対応」、「助けを求める」、「協力を求める」、「卒業後の相談者」

3年間通じての平均点が1～2点台の項目：なし

【職業適性】



3 年間通じての平均点が 3 点以上の項目

「作業の流れの意識」、「用具の使い方」、「作業スピード」、「協力して作業」

3 年間の平均点が 1 ～ 2 点台の項目：なし

【考察】

5 領域のほとんどの項目で、学年が進行するごとに得点が上がっている。特に、生徒が、日々の生活の中で繰り返し経験のできる項目については、着実に得点が伸びており、実際に経験することで定着していくことがわかる。また、1 年次までは 2 点台にとどまっていたものが 2 年次、3 年次で大きく得点を伸ばしている。1 年次に学んだ知識を 2 年次、3 年次での現場実習や専門教科を中心とした実践的場面で発揮できつつあることを生徒自身が実感できていると考えられる。上記のことから、本校の教育を受けることは、社会人としての基礎的な能力を身につけることにつながっていると考えられる。

反面「起床就寝」や「食事」などについては、3 年生での低さが目立っている。問題意識として持っていることの現れだが、意識をしてもできづらいこと、直接指導しづらい内容について、どのように力をつけるか今後検討していきたい。

また、3 年間の教育を通して、得点の伸びにくい項目にも着目しておきたい。その項目は、【健康管理】「障がい特性」である。今年度の 3 学年の弱点や課題であり、卒業後の 4 月からの就労に向けて、移行支援会議で各企業へ生徒の実態を引き継ぐ等の手立てが求められる。考え方、行動の傾向として障がい特性を自分自身が十分理解することは、容易なことではないが、苦手なことへの対応、困難な時のサポートを求めたりするときなど、障がいによる不利益を被らず、主体的に生活するために必要なことである。前述の 1 年生から 3 年生までの比較でも挙げたが、本校での障がい特性の理解について整理していきたい。